

氏名・(本籍)	小林真央 (秋田県)
専攻分野の名称	博士 (保健学)
学位記番号	医博甲第41号
学位授与の日付	令和5年3月23日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
研究科専攻	医学系研究科 (保健学専攻)
学位論文題名	糖尿病患者の糖尿病に対する認識と外来受診を中断しようと思ったことに関する検討
論文審査委員	(主査) 教授 安藤 秀明 (副査) 教授 鈴木 圭子 講師 利 緑

論文内容の要旨

研究目的

糖尿病の定期的な外来通院と死亡率に関連が指摘されており、受診の中断は死亡と独立する関連因子として報告されている¹⁾。このことから、糖尿病治療において外来受診を継続することが重要であると考えられる。

本研究では、糖尿病患者の外来受診を中断しようと思ったことと糖尿病に対する否定的認識の関連を検討した。

研究方法

1. 用語の定義

「糖尿病外来受診を中断しようと思ったことのある糖尿病患者」は患者自身の自記式質問紙で「受診を中断しようと思ったことがある」と回答した人を外来受診を中断しようと思った糖尿病患者とした。

2. 対象者

総合病院 A の糖尿病内分泌内科で2011年4月から2019年4月に糖尿病教育入院目的で入院した糖尿病患者 (約640人) で本研究への研究参加に同意の得られた糖尿病患者。

3. 研究デザイン

質問紙を用いた調査研究。

4. 質問紙の内容

質問紙の内容は先行研究で糖尿病外来受診の継続に関連すると推測されているもの、糖尿病に関する否定的な認識を問うもの、現在の治療状況についての患者の認識、個人属性、糖尿病についての意見を問うものを作成した。

5. 本研究で用いる糖尿病に関する否定認知（DNC）尺度について

糖尿病に関する否定的認知（Diabetes Negative Cognition, DNC）尺度^{2,3)}は、糖尿病という病気についての患者自身が抱く様々な認識を測定する心理テストで、「生きがいのなさ」、「糖尿病の重荷」、「医療不信」、「周囲の監視・干渉」、「疎外感」、「薬・インスリンへの抵抗」、「自己管理の圧力」の7つの下位項目からなる。

6. 統計手法

糖尿病についての意見の自由記載を除く変数を糖尿病の受診を自己中断しようと思ったことがあるかについてt検定、 χ^2 二乗検定またはフィッシャーの正確確率検定を用いて2群間比較を行った。また、受診を自己中断しようと思ったことがあるかを従属変数とした多重ロジスティック回帰分析を行った。

糖尿病についての意見の自由記載は意味を含まない回答を除いた記載についてテキストマイニングを行い、語の出現の特徴について分析した。

結 果

質問紙送付対象者は535名中、返信が199名（返信率37.2%）で記載漏れのない194名（有効回答率97.5%）を分析対象とした。受診の自己中断をしようと思ったことがあると回答した人は33名、思ったことはないと回答した人は161名だった。受診の自己中断をしようと思ったことがあるかの2群間比較で、罹病期間、調査時年齢、教育入院時年齢、糖尿病治療への満足度で有意な差がみとめられた。

受診の自己中断をしようと思ったことがあるかを従属変数とし、独立変数に先行研究で受診の中断との関連が指摘されている年齢、性別、HbA1c、合併症の有無、喫煙歴、飲酒歴、糖尿病治療への満足度とDNC合計得点を投入したロジスティック回帰分析は現在の年齢とDNC合計得点が統計学的に有意な項目となった。DNCの下位項目得点を投入しAICを基準にステップワイズで項目を選択した多重ロジスティック回帰分析では、現在の年齢と糖尿病治療への満足度とDNC下位項目の生きがいのなさが有意な項目とみとめられた。

糖尿病についての意見の自由記載のテキストマイニングでは糖尿病受診を中断しようと思ったことがあるかに特徴的な語として「見る」「担当」「食べる」が抽出された。

考 察

多重ロジスティック回帰分析の結果からは、受診を自己中断しようと思ったことがあるについて、年齢、性別、HbA1c、合併症の有無、飲酒・喫煙歴、糖尿病治療への満足度を調整しても、糖尿病についての否定的な認識との関連がみとめられた。

AIC を基準としたステップワイズでは DNC 尺度のうち生きがいのなさの得点が有意な項目となっていたことから、糖尿病についての否定的な認識のうちでも「生きがいのなさ」がもっとも受診を中断しようと思うことに他の否定的な認識よりも関連していることが示唆されていると考えられる。

DNC 尺度の「生きがいのなさ」は糖尿病であるが故に感じる自分自身への負の感情である。これはセルフスティグマの状態にあるといえ、糖尿病患者はセルフスティグマを抱いているとセルフケア行動レベルが低下することが示されている⁴⁾。セルフスティグマによるセルフケア行動への負の関連が、糖尿病受診の自己中断をしようという思いと関連していると考えられる。

糖尿病についての意見の自由記載からは、糖尿病受診の中断を考えている群で特徴的な語として、「見る」、「食べる」、「担当」が抽出された。「見る」と「担当」は「体重はかって（中略）、先生は私と目を見てくれない時もあるし、」などの医療従事者への不満の文脈で語られ、治療の不満のうちでも医療従事者への不満は外来受診の中断に関連する可能性が考えられる。「食べる」は「食欲を抑えられないのは（中略）色々言われてきました。なぜ分かっているながら食べたのか理由を聞いてほしい」など食べてしまうことを主治医に叱責された経験などの文脈で語られていた。糖尿病患者の食事や食事療法に対して抱く複雑な感情を理解した介入が必要であると考えられる。

結 論

- ・糖尿病外来の受診を中断しようと思うことと糖尿病患者自身が抱く糖尿病についての否定的な認識は関連があり、否定的な認識が高いと糖尿病外来受診を中断しようと思うことが示唆された。
- ・糖尿病外来の受診を中断しようと思うことに糖尿病患者自身が抱く糖尿病についての否定的な認識のうち「生きがいのなさ」がその他の否定的な認識よりも関連している可能性が示唆された。

参 考 文 献

- (1) Currie, Craig J., Peyrot, Mark, et al. The impact of treatment noncompliance on mortality in people with type 2 diabetes. *Diabetes Care*. 35(6), p.1279–1284, 2012.
- (2) 瀧井正人, 内湯安子ほか. 糖尿病否定的認知に関する質問紙 DNC 尺度の開発と信頼性および妥当性の検討. *糖尿病*. 56(8), p.560–569, 2013. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/2014033010>, (参照2016-08-30).

- (3) 瀧井正人, 内瀨安子ほか. 糖尿病否定的認知尺度 (DNC 尺度) を用いた糖尿病患者心理の研究. 糖尿病. 59(1), p.36–44, 2016. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/2016167599>, (参照 2016-08-24).
- (4) Kato, Asuka, Fujimaki, Yuko, et al. Association between self-stigma and self-care behaviors in patients with type 2 diabetes: a cross-sectional study. BMJ Open Diabetes Research & Care. 4(1), p.1–7, 2016. [/pmc/articles/PMC4716123/](https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/34716123/), (参照 2022-09-07).

論文審査結果の要旨

要旨：糖尿病の予後規定因子である外来通院継続をテーマに，外来通院中断患者の背景と本人の糖尿病患者が糖尿病に対する否定的認識を明らかにし，学位論文に値するものである。

斬新さ：糖尿病患者が糖尿病に対する否定的認識を量的・質的に分析し，糖尿病患者の複雑な感情を分析し，学位論文に値するものである。

重要性：糖尿病患者生命予後に直結する継続的関わりにおける課題を明らかにし，その対策を提案した，学位論文に値するものである。

表現の明瞭性：研究審査会において，研究内容を発表し，その内容を副査に検討し表現が明瞭であることを評価し，学位論文に値するものである。